

施 策 カ ル テ

1 施策の位置付け

				担当課	農業振興課		
総合計画 政策の柱	市民の豊かな暮らしを支える活気と活力のある社会を築くために	政策名 (基本施策名)	農林業の付加価値を高める	取組の 基本方向	「農林業の付加価値を高める」ため、担い手の育成や生産基盤の充実などにより、安定した稲作経営を実現するための「安定した水田農業基盤の確立」、農産物の品質を向上するとともにブランド化を推進し、産地間競争に打ち勝つための「農産物の産地力の向上」、魅力や活力ある農村社会を形成するための「農村地域の活性化」、農林業のさまざまな公益的機能を維持・向上するための「環境と調和した農林業の推進」に、重点的に取り組ま	政策目標 (基本施策目標)	生産力や産地力の向上、良好な農村環境の形成など、総合的に農林業の付加価値が高まっています。

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

施策名	農産物の産地力の向上						達成状況	施策指標(単位)						達成率(%)		
	達成している(90%以上)							H19:基準	H20	H21	H22	H23	H24:目標			
施策目標	産地間競争に打ち勝つ、市場価値の高い農産物が生産されています。						現状課題の抽出 農産物価格や肥料・飼料などの生産資材の高騰による農業生産環境が厳しい中、施設園芸におけるヒートポンプ設備や保温技術の導入によるコスト縮減や、宇都宮牛復興プロジェクト等における付加価値の高い農産物の生産とともに、戦略的PRなどにより、産地イメージが高められている。 米価低迷が長引く中、経営の効率化や新技術・設備導入によるコスト縮減や、園芸作物を導入した経営の複合化など、農家所得の確保のための支援施策が求められている。 施設園芸は、パイプハウス等の施設のほかに、灌水設備等の整備に多額の費用を要することから、新規で取り組む農業者への支援策を充実する必要がある。 安定した品質の農畜産物を生産する体制や、販売力を高める戦略的PRなどの事業を展開していることから、産地のイメージアップに十分な効果をあげている。	---	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	---		
実績値	実績値							---	実績値	実績値	実績値	実績値	---			
トマトの出荷量(トン)								---	4,370	4,465	4,560	4,655	4,750			
4649								4649	4,218				---			
肉用牛の出荷量(頭)							---	700	725	750	775	800				
805							805	835				---				
市民の施策満足度	31.1%	達成度(単年度目標)		達成している(90%以上)		概ね達成(70%~90%未満)		達成していない(70%未満)		説明	現状課題の抽出 農業者の高齢化や担い手不足、園芸作物新規栽培者の低迷、保管理地・耕作放棄地の活用不足などから本市の地域食料自給率は、国より低い31%であり、また、生産工程を管理した品質の高い農産物の生産に取り組んでいるが、景気の低迷によるブランド農産物の買い控えや、農産物価格の低下、資材高騰等の生産コスト高等により農業所得が低下している。生産履歴の記録により安全な農産物の生産に取り組んでいるものの、消費者の理解は十分とはいえない状況にある。 このようなことから、自給力を高めるための耕作放棄地などの解消や、農業経営の安定を図るための経営の複合化や低コスト化、品質向上の取組、安全なうつのみや産農産物のPRなどを図る必要がある					
市民の施策重要度	71.7%	必要性(住民・社会ニーズ)		増加している		横ばい		減少している		説明						
		効率性(事務事業の進捗)		十分である		不十分な事業が一部ある		不十分な事業が複数ある		説明						
		有効性(政策目標への効果)		十分である		やや不十分である		不十分である		説明						

3 今後の取組方針

取組の考え方	これまで以上に、農産物の産地力を向上させるためには、耕作放棄地や保管理地などを含めた農地の有効活用や、経営の安定化のための米と園芸作物などを組み合わせた複合化の推進や高品質農産物を生産するための土づくり、優良な和牛素牛を生産するための基盤の整備、さらに、安全な農産物を供給するためのトレーサビリティのシステムづくりや、ブランド農産物と観光を組み合わせた戦略的PRなどに取組むことが必要であることから、現状の事務事業の改善・拡大や、新たな事務事業の立案などに取り組む必要がある。	➡	政策評価 会議意見	米の生産調整による保管理地などの有効活用や稲作における園芸作物との経営の複合化など、生産量の増大や収益性の向上により「農産物の産地力向上」を図っているものであるが、さらに「農林業の付加価値を高める」ため、適正な施肥などによる「土づくり」への支援や、統一的な家畜の飼育方法などによる農畜産物の高品質化、トレーサビリティの仕組みづくりなどによる安全性の明確化や安心感の向上を図ること。 また、すでに確立しているブランド農畜産物についても、観光と組み合わせた販路拡大や「うつのみやプライド」との連携をはかるなど、農業の枠組みを越えた全体的で戦略的なPRを行ない、ブランド力の向上を図ること。
--------	--	---	--------------	---

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H19	H20	H19	H20	優先度	事業の方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費(千円)	事業費(千円)			
1	農林産物ブランド化推進事業補助金 担当課 農業振興課	うつのみや農林産物ブランド化推進協議会		ブランド農産物の市民認知度 プレミアム7・プレミアム13	19.8%	17.6%	900	10,900	A	継続	ブランド農林産物の知名度向上を目指し、地元及び首都圏におけるPR活動の拡充に合わせ、消費者向けには食や観光との組み合わせによる農業体験事業の企画・実施を、実需者向けには商談会等を実施することにより、ブランド農産物の販路拡大と生産振興を図るため、事業を継続する。
					19.8%	17.6%					
2	適正施肥推進事業補助金(園芸作物) 担当課 農業振興課	宇都宮農業協同組合、農業生産法人、農事組合法人、その他農業者の組織する団体		高品質化栽培マニュアル及び実践数	1本		0	100	A	継続	これまでブランド品として確立しているトマト・なしを対象とした品質向上策を進めてきたが、今後は、重点5品目を中心に県やJANAなどの技術者と連携を図って、品質のばらつきの少ない産地を目指し、農業者自らが土作りに取り組む事業を検討する。
					0本						
3	園芸作物生産施設等整備事業補助金 担当課 農業振興課	宇都宮農業協同組合、農業生産法人、農事組合法人、その他園芸作物の生産団体		パイプハウスの補助事業導入面積	3.0ha		19,110	42,006	A	拡大	これまでの利用者は、園芸農家で主に規模拡大のために事業を導入してきたが、今後は土地利用型農業からの転換を促進するため、事業単価と補助メニューの見直しを検討する。
					2.1ha						
4	宇都宮牛復興プロジェクト補助金 担当課 農業振興課	宇都宮牛協会	H20	宇都宮牛(上物)出現率	70%		-	6,354	A	継続	宇都宮牛の出現率及び頭数を増加させるため、特別配合飼料「特撰宮牛」の給与と、マニュアルの確実な実施を指導するとともに、支援を継続すること。さらに、宇都宮牛の出現率の更なる向上のための、優良素牛の生産体制を検討すること。
					62.6%						
5	優良繁殖雌牛導入事業補助金 担当課 農業振興課	宇都宮農業協同組合		優良繁殖雌牛導入頭数	5頭		646	1,119	A	拡大	優良な和牛肥育素牛を生産するには、優良繁殖雌牛の導入が不可欠であるため、導入する市場の調査・選定を強化するとともに、導入数を増加することで、産子数の増加・確保に努め、繁殖農家の経営基盤の強化を図る。
					5頭						
6	畜産担い手育成総合整備事業補助金 担当課 農業振興課	財団法人 栃木県農業振興公社		草地等造成・整備面積	11.38ha		60,324		B	継続	自給飼料生産基盤の拡大及び家畜頭数増加に伴う農業用施設整備等を推進し、畜産経営の規模拡大を促進するため、畜産農家に規模拡大への働きかけをする。
					3.21ha						
7	しいたけ生産施設整備事業補助金 担当課 農業振興課	宇都宮農業協同組合、生産組合		しいたけの生産量	197t		875	1,141	B	継続	これまで、原木から菌床へ生産体制をシフトしてきたことから、菌床栽培に必要な機械や設備導入を中心に事業を展開し、主要な機械等の導入はほぼ完了した。今後は安全面やコスト低減を図るための事業を継続する。
					197t						
8	トマト黄化葉巻病対策事業補助金 担当課 農業振興課	トマト生産者の組織する団体	H20	病害発生件数	5件		0	661	B	継続	生産者に補助事業が十分周知されなかったこと、現場にあった補助メニューでなかったことなどから、思いのほか利用者が少なかった。今後は周知方法と補助メニューを検討し、病害の発生を未然に防ぎ産地力を維持するためにも、事業を継続する。
					13件						
9	家畜伝染病予防対策事業補助金 担当課 農業振興課	宇都宮市家畜防疫団体連絡協議会 宇都宮市酪農組合		予防接種頭羽数	3,100頭	100,000羽	3,001	4,386	B	継続	伝染病の伝播は広域に及ぶため、全地域、全畜種を対象に防疫活動を実施してきた。また、防疫対策・環境対策の費用は高額であること、伝染病に対する防衛を生産者に任せるとの危険性などから、今後も事業を継続する。
					1,072頭	66,000羽					
10	畜産経営環境対策事業補助金 担当課 農業振興課	3戸以上の営農集団(畜産農家、畜産農家と連携する耕種農家)		機械導入数	3台		1,996	1,496	B	継続	良質なたい肥の生産流通及び自給飼料の生産流通拡大を促進するため、省力機械導入の一層の推進を図ること、さらに家畜排せつ物処理施設の老朽化が見られることから、更新に際しての支援のあり方について、検討すること。
					3台						

様式 2

11	園芸作物生産振興対策事業補助金		宇都宮農業協同組合， 農業生産法人，その他 農業者の組織する団体		輸出国数	4カ国	400	400	C	見直し	輸出事業は，費用対効果の面から，単独ではなく県と連携するよう事業を見直す。また，品質にばらつきの ない産地を目指し，土に着目した事業を検討する。
	担当課	農業振興課				4カ国					
12	イノシシ防護柵導入事業補助金		農業生産者	H 2 0	設置箇所数	—	—	171	C	継続	イノシシによる農作物の被害が拡大してきているため，被害防止に対するニーズは高く，今後は，防護柵の 設置を推進するため，農業者及び関係機関・団体等への補助事業の周知方法を検討する。
	担当課	農業振興課				5箇所					
13	牛受精卵移植促進事業補助金		J A うつのみや E T 研 究会		牛受精卵移植頭数		1,000	1,000	C	見直し	受精卵移植による産子は価格形成が有利であるが，受精卵価格や移植費用が高額であることと，高確率出産 にまでは至っていないことから，優良繁殖雌牛導入を拡大し，本事業を見直しする。見直しに当たっては， 宇都宮牛生産の一貫体制についても，検討する。
	担当課	農業振興課				1 2 0 頭					
施 策 事 業 費 合 計							27,028	119,158			